

第5回大仙市総合戦略推進会議（平成28年3月23日開催）

【推進会議委員からの主な意見等】

- 国の総合戦略の基本目標は4つ。1つ目が「地方における安定した雇用を創出する」、2つ目が「地方への新しい人の流れをつくる」、3つ目が「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」、4つ目が「時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」となっている。地方創生先行型交付金事業として提示されたこれらの事業で、基本目標の達成が本当にできるものなのか。
- 総合戦略の場合は市全体の話であるが、産業振興の部分において花火産業構想を推進するにあたりこの交付金を活用したもの。総合戦略全体を網羅しているという考え方はなくて、その一部という考え方で捉えていただきたい。【推進会議事務局】
- （株）花火創造企業が平成27年5月に採用した5人のうち2人は県外出身者（栃木県、東京都）。平成28年度は4人の採用が決まっているが、このうちの1人は北海道出身。これまで2回の社員募集をかけたが、50人を超える応募があった。大きな雇用の拡大まではいかないが、花火に携わりたいという人がいるということを実感している。
- 「花火のまち大仙」というキャッチフレーズは、全国的にみれば、鳥取の大山を頭に浮かべる人も多いと思う。「大曲の花火」と「花火のまち大仙」が二本立てになってPRされている現状はとても不安である。「花火のまち大仙」を謳う際には「大曲」も付け加えなければ別々の扱いをされる気がする。経済効果の観点からも考えた方がよいのではないか。
- 市内各地域で花火大会が開催されている関係から「花火のまち大仙」というPRを「大曲の花火」とともに行っているものであるが、ご指摘の内容については検討させていただきたい。また、どのように活用すれば交流人口の拡大、波及効果をもたらすかについても検討したい。【推進会議事務局】
- 平成29年4月に大仙市で開催予定の国際花火シンポジウムを知っている人はごく一部ではないか。実際にいつ何をやるのかを知っている人は色々話を聞いてみたが少なかった。特に若い人は開催自体を知らなかった。検討してもっとPRしてもらいたい。
- 国際花火シンポジウム協会（本部：カナダ）の公式訪問団が平成28年5月に本市を訪れることになっており、その後の会場、スケジュール等の詳細決定を受けて、市、商工会議所などでPRを強化していきたい。【推進会議事務局】
- 平成28年4月には国際花火シンポジウムのプレ大会が開催されるが、プレ大会に関する情報もよく伝わっていないのかもしれない。開催まではあつという間なので、どんどん情報を発信していかなければいけない。国際花火シンポジウム実行委員会や行政、商工団体を含め、どんどんアピールして欲しい。